

中国の記事から (WTO/FTA・貿易・安全 ・その他)

2006年11月10日号

目次

◎WTO加盟5周年、改革、社会・経済発展を促す

【経済日報 2006年11月07日】

◎新疆自治区、燃料用エタノール生産能力年間40万トンの見込み

【中国化工報 2006年11月10日】

◎WTO加盟5周年、改革、社会・経済発展を促す

【経済日報 2006年11月07日】

商務部の崇泉・部長補佐は、先ごろ開かれた中国のWTO加盟5周年を記念する保険・金融フォーラムに参加、WTO加盟後の経済、貿易状況を総括した。中国政府は安定的、国情に合致したマクロ経済政策を採り国民経済の成長を維持、WTO加盟は中国の改革、社会・経済の発展を促しているとの見方を示した。崇部長補佐によれば、中国の貨物貿易規模は2001年の5096億ドル(世界6位)から2005年は1兆4221億ドル(同3位)、サービス貿易規模も719億ドル(同11位)から1665億ドル(同7位)に拡大。2006年1～8月の貨物貿易額も23.9%増(輸出25.9%増、輸入21.6%増)を記録している。

また、2002年から2005年の外資直接導入額は契約ベース5404億ドル、実行ベース2272億ドルを記録。2005年の外資系企業工業生産額は全国の29%にあたる1兆9000億元、輸出入額は同58.5%相当の8317億ドル、技術導入額は同43.0%相当の83億ドル、納税額は同21%相当の6349億元に上っている。2005年の銀行・保険・証券業に対する外資投資額は118億ドルに達しており、これを加えた場合同年の外資導入額は724億600万ドル(前年比19.4%)に上ることになる。

また、WTO加盟時の公約を遵守しサービス貿易160分野のうち104分野を開放、広範な市場参入の機会を提供。今後も多国・地域間経済組織の協力を強化し各国が共同発展できる環境を

創出していくと崇部長補佐は述べている。

◎新疆自治区、燃料用エタノール生産能力年間40万トンの見込み

【中国化工報 2006年11月10日】

新疆ウイグル自治区では最近になって燃料用エタノール生産事業が相次いで始まっている。このため新疆自治区の燃料用エタノール生産能力は5年以内に年間40万トンに達し、全国的な生産拠点になるものと予測されている。同自治区昌吉回族自治州では、吉薩爾県三台酒業(集団)会社が農作物の茎を利用するエタノール生産拠点の建設工事を開始。投資額は2億8千万元、2009年の完成後、年間10万トンの燃料用エタノールを生産する。

また、自治区南部の莎車県は江浩キ生物質新能源科技有限公司(浙江省)と共同でコーリヤンの茎を利用する事業を実施。12億6千万元を投じるもので、年間30万トンの燃料用エタノールを生産する。このほかにも原料となるコーリヤン2万ムー(1ムーは6.6アール)を栽培するなど自治区として燃料用エタノール生産に力を入れている。2005年現在の全国燃料用エタノール生産能力は102万トン、計1020万トンのエタノール混合ガソリンを生産可能である。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により
翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て
独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。